

1 学習に取り組んでいる主な分野

<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 海洋	<input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災	<input checked="" type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input checked="" type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ()	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校では、生活科・総合的な学習の時間を中心に、テーマを「環境」「郷土・国際理解」「生命」に重点化してESDに取り組んできた。持続可能な社会づくりに必要な能力や態度を「問題解決力」「伝え合う力」「関わる力」「行動力」に整理し、発達段階ごとに具体化して授業づくりに生かしてきた。

子どもたちが思考力を大いに発揮し、コミュニケーションの活性化を図って課題追究できるように、子どもたちの主体的・協働的な学びを大切にしたい体験活動を位置付け、工夫した学習を展開している。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ 「郷土・国際理解」にかかわる活動

5年生「吉野小桜プロジェクト」では、5年生が毎年管理を続けてきた桜を教材として扱い、植樹された桜の木の管理及び新たに植樹する体験をしたり、桜開花時期に桜ウォーキングを企画・運営したりしている。本年度は、桜を大事に育てる意欲を育てるために、堆肥作りに取り組んだ。給食で出た野菜の皮や家庭からの生ゴミを使い、段ボールコンポストで堆肥を作った。よりよい堆肥を作りのために自分たちで調べたり、GTに尋ねたりしながら堆肥作りの体験を行った。その堆肥を使った寒肥と通して、地域の今やこれからについて考え、地域に貢献したいという思いを持つことができるようにした。



○ 「郷土・国際理解」にかかわる活動

6年生は「吉野ふれあい夏祭りを盛り上げよう」で、4年ぶりに開催された、吉野ふれあい夏祭りを盛り上げる活動に取り組んだ。参加する人を楽しんでもらいたい、参加者同士のつながりを作ってもらいたいという思いをもって、吉野地区総合まちづくり協議会の方々と協働しながら、夏祭り当日はヨーヨーすくいなどのゲームを運営したり、椅子運びなどのお手伝いをしたりした。子どもたちは夏祭りの運営に関わる活動を通して、地域に貢献する充実感や達成感を得ることができた。



○ 「福祉」にかかわる活動

3年生では「人にやさしい吉野の町」として、地域のよさを福祉の視点から見る活動を行った。地域の民生委員や見守り隊の方々の活動を知ったり、高齢者体験を行ったりする活動を行うことにより、自分たちにも何かできないだろうか自分たちなりに、人にやさしくできることを考え行動し、地域の一員として頑張っていこうとする態度を育むことができた。毎朝、校門に立ち、挨拶運動を行ったり、地域行事「福祉のつどい」に参加したりして、地域の一員としての活動を行うことができた。



3 今後の活動計画

学校教育目標を「持続可能な社会づくりを担う、心豊かでたくましい吉野の子どもの育成」とし、学校全体で取り組む。そのために、

① 授業づくりについて

子どもたちの主体的・対話的で深い学びを促していくとともに、主題研究においては、ESDを主題として取り組む。

② 教科等の関連の充実

学習指導計画の見直し・改善を常時継続的に行い、より総合的・横断的な学習となるようにカリキュラム編成を工夫する。その際、特に生活科・総合的な学習の時間と各教科・領域等との関連を内容面と方法面から、そのつながりを明らかにする。

③ ESDの活動の広がり

子どもたちが主体となる学習の場を保証する。また、発信する・行動する場を設定する。

④ 職員室のESD

常に欲しい情報に対して、意見交換ができるようにする。